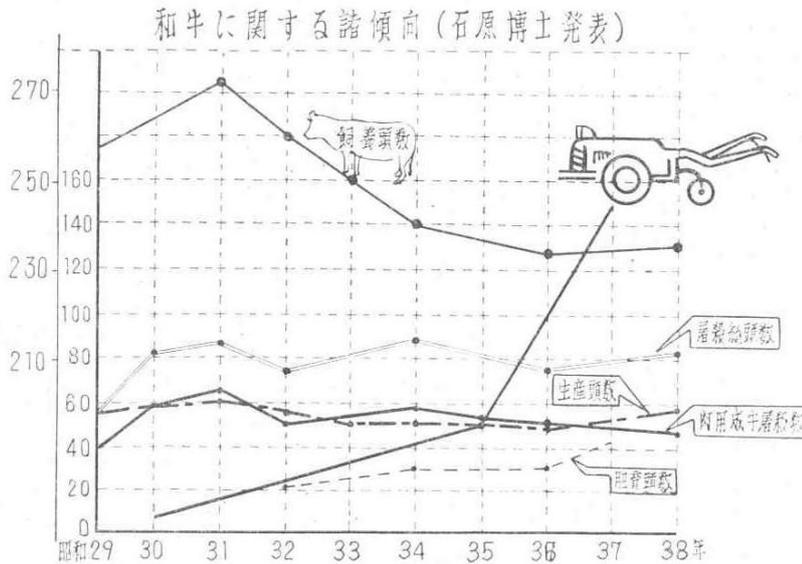


県総合畜産だより

和牛の歩みと今後の見通

和牛の飼養頭数の減少はとまる。和牛の経済性を向上するには……
時代に即した、遺伝的改良と、飼育管理の改善が急務である。



■和牛は、役用から肉用へと大きく変遷しつつある

和牛の代りに耕耘機が50万（S35年）から170万（S38年）に増加する

■これからの和牛の生きる道は、肉畜として変ることから

和牛肥育頭数は年々漸増の傾向にある

■和牛は、低迷価格から上昇傾向に転じた

生産頭数と消費頭数の極度のアンバランスで高値必至

■経済性の高い遺伝質の牛に改良する

産肉能力、肉質のよい、飼料の利用性の高い飼い易い牛にする

■商品価値の高い子牛をつくること

肉利用主体に考えれば、哺乳中の子牛の発育、規格がよくならねばいけない、哺乳中の規格のよい牛は、後の肥育の飼料の利用性、仕上がらなく出来る

■牡は、とくに手を加え去勢、飼料の別飼いなどもして改善する必要あり

これからの牡は、殆んどは肥育の素牛である、よい素牛は理想肥育の素牛に利用されることを予想し、資質の改善と飼料の利用性から早期生後2～3ヶ月の去勢をする

第3回岡山県枝肉共進会盛會裡に終了

去る12月19日～20日の3日間に亘って県枝肉共進会が終了したので、その結果について申述べてみます。
 第1部（肉牛の部）は、出品点数去勢28点雌5点、和気地区、去勢8点雌3点、笠岡地区去勢4点雌3点、高梁地区雌3点、津山地区去勢1点雌5点、美作地区去勢5点でありました。

第2部（肉豚の部）は出品点数、24組（48頭）で、内ヨークシャー種が19組38頭とランドレース種5組10頭であった。

性	と殺前体重			枝肉重量			枝肉歩留			セリ単価		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
♀	Kg 640	Kg 415	Kg 541	Kg 458.0	Kg 273.0	Kg 336.4	% 64.9	% 57.5	% 61.5	円 560	円 421	円 465
♂	633	427	544	411.5	280.5	342.2	66.3	58.4	63.3	685	441	531
総計			542.5	458.0	273.0	339.8	66.3	57.5	62.3	685	421	494
S38年度			571	450.0	258.0	356.0	66.9	60.3	63.8	720	420	497

と殺前体重			枝肉重量			枝肉歩留			セリ単価		
最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
105Kg	75Kg	87.3Kg	74Kg	54.5Kg	63.7Kg	81.7%	67.8%	69.9%	400円	342円	361円
S38年度		88.3	86.5	47.5	65.6	80	67.0	73.9	505	415	446

効果実証

肥育専門飼料『肉牛用完全配合飼料』爆発的人気

飼料効果については、いよいよ自信をたかめた

第3回県枝肉共進会と第3回岡山地区枝肉共進会のトップは“肉配”の使用牛である

第3回岡山県枝肉共進会（S39.12.18～20）

出品牛 No.45号 最優秀賞（首席）

めす牛 単価 685円

出品者 岡山市沖元 岡本満志

第3回岡山地区枝肉共進会（S39.12.24～25）

出品牛 No. 号 最優秀賞（首席）

めす牛 単価 565円

出品者 岡山市沖元 西岡寿太郎

飼料の特徴

飼料について

- ・価格が安いこと
- ・嗜好がよいこと
- ・消化がよく利用効力がよい
- ・肥育の仕上期まで利用出来る

枝肉について

- ・枝肉の外観と肉質がよい

脂肪状態が非常によい

色（白）ミバリ、テリ

（光沢）

ロースのサシの状態もよかつた

- ・枝肉の商品価値が高い

食肉消費の伸びは目覚ましい、国民1人1年消費量は昭和38年は7kg 昭和45年は10kgに予測される